

かなでる、みる、ふれる！

展示
作品

きょうゆうがっき
どうぐがつなぐあそびの未来展 ~ 共遊楽器の世界 ~

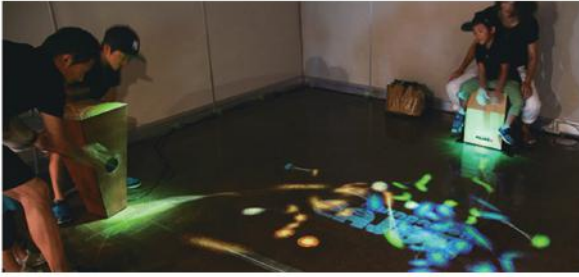
1 Mountain Guitar

音楽を弾く真似で演奏することができるよ！本体を傾けたり、振ったりして全身で奏でてみよう！



2 Vibracion Cajon

3種類の形の異なる打楽器を使って、叩いたタイミング・リズムによって映像が現れるよ！



3 Clap Light Drawing

拍手で光る「Clap Light」を使って、暗闇の中で拍手で絵を描くワークショップの写真を上映！



4 VibGrip [静態展示]

音を手のひらから感じる事ができる振動デバイスで、コンサートで使用した様子と利用者の感想を映像で上映！



5 ratatap

楽器を鳴らすと「オトダマくん」が飛び出すよ！みんなでテンポよく演奏してデカダマくんを登場させよう！



6 楽器を纏う [静態展示]

服に楽器が内蔵され、ダンスをしながら楽器演奏をすることができるよ！楽器の説明と演奏パフォーマンスを上映！



7 Touch the sound picnic

デバイスを持つことによって、会場内の作品から発生する音にふれることができるよ！



8 pitapat

靴を履きかえて歩くと、自分の足あとがカラフルな生き物になるよ！色々な歩き方をしてみよう！



道具によって広がるアソビ、未来のアソビを楽しもう！



企画ディレクター (神戸芸術工科大学助教)

金箱 淳一氏 [佐久市出身]

1984年長野県北佐久郡浅科村(現:佐久市)生まれの楽器インタフェース研究者 / Haptic Designer / 博士(感性科学)。神戸芸術工科大学助教。
18歳まで浅間山を望む田園地帯で過ごし、稲穂やイナゴに触れながら育つ。障害の有無にかかわらず、共に音楽を楽しむための道具「共遊楽器」を提唱し、幅広く研究・制作を行う。

KANEBAKO Junichi